第三百一話　学ばぬ者は滅ぶ！

日本海軍の数ある海戦の中でも余り取り上げられない珊瑚海海戦であるが、興味あるテーマが多い。将帥の性格・識能と戦闘部隊指揮官の適格性、戦略と戦術の関係、戦訓の活用、復旧力、新技術の運用、戦果報告等々

１　珊瑚海海戦の概要

珊瑚海海戦とは、ミッドウェー海戦（1942/6/5～6/6）の前の５月に行われた世界初の空母対空母の艦隊戦である。双方、輸送船団、補給艦隊を攻撃、撃沈したのち、正面からの機動部隊同士の戦闘となった。結果、日本側は空母祥鳳が撃沈、翔鶴が大破、連合軍側は空母レキシントンが撃沈、ヨークタウンが中破した。

史上初の「互いに艦隊同士が相手を視認することなく行われた空母艦隊同士の海戦」であるとされる。

◎日本側：南洋部隊（指揮官４艦隊司令長官井上成美中将）隷下にMO機動部隊（5戦隊）、MO攻略部隊（６戦隊等）、基地航空部隊（11航空戦隊）

空母3、重巡７、軽巡２、等

◎米軍：フレッチャー少将指揮する１７任務部隊　空母2、重巡７、軽巡２等

◎戦闘結果

日本：空母祥鳳沈没、空母翔鶴損傷、航空機損失９７機

米：空母レキシントン沈没、空母ヨークタウン損傷、航空機損失６９機

２　本海戦に関する様々な評価等

（１）戦術的には日本の勝利（？）、戦略的には連合軍の勝利（日本のMO作戦を阻止し、米豪連絡維持）

（２）日本側の得たであろう（とされる）教訓

・各部隊間の連携極めて悪し（寄せ集めの部隊であり連携悪し）

・索敵の重要性（綿密・迅速・正確な索敵が死命を制する。）

・米海軍の迎撃戦闘機と対空兵器の威力痛感

・米急降下爆撃の効果確認

＊　これらの教訓を日本海軍が活かさなかったのは、全責任を井上中将に帰し、大した教訓はなしと考えたのであろうとの指摘もある。学ばぬ者は滅ぶ。

（３）米戦史家の疑問と日本海軍首脳の評価

（米）　何故、日本は戦術上の勝利を得ながら、何故MO攻略を中止したのか？

（日本海軍）「何故、追撃命令を出さぬ！」「戦機を見る目なし」等の非難轟々

昭和天皇評「井上は学者だから、戦いは余りうまくない。」

（４）日本が沈めた筈の空母ヨークタウンが、ハワイ海軍工廠で応急修理の上、ミッドウェー沖に表れた。米軍の兵站力、技術力には驚嘆すべきものあり。また、ＣＸＭＡレーダーを実戦運用した。

（５）ラバウルの基地航空部隊による戦果の誇大報告と更にそれが水増しされた。戦果水増しの大本営発表が実質的に始まった。

（６）航空艦隊同士の航空戦であり、従来の大艦巨砲主義が転換したことを象徴する記念すべき海戦との評価もある。

（７）珊瑚海が日本海軍の最南端進出地であった。

（８）瑞鶴のみでは収容できぬため、損傷大なる機体は海中投棄された。非情の決断

＊井上中将は左遷人事で４艦隊司令長官に親補？適材適所だったのか？

（了）